

## International Symposium on a Cocreation of Social System and Technological Innovation for the Global Food Resource (食資源をめぐる社会制度とそれに連動する技術革新)

主催

農学研究院食水土資源グローバルセンター

共催

国際食資源学院、経済学研究院、公共政策大学院

後援

国際連携研究教育局 (GI-CoRE)

シンポジウム WG

委員長 鍋島孝子

委員 高橋昌志、久保田肇、齋藤陽子

日程・場所

11月17日(水)~18日(木)

学術交流会館小講堂

対面(80名程度)とオンラインの併用

コロナ感染状況によっては、オンラインのみになる可能性がある

開催の趣旨:

開発の歴史を検証すると、多くの用語が創出されてきて、その時代の政治経済の趨勢と自然環境の変化に場当たりに適応してきたように見える。故に、長期的・学問的に、なぜ、どのような経緯から理念や制度が必要になったのかを検証する必要があると考える。このような議論から、今後に想定される食資源をめぐる国際社会と国家、国内社会、技術のあり方、経済発展と公平性を展望できるのではないかと考える。

講演の後の総合討論では、各講演の論点を踏まえ、以下の視点から「これからの社会制度と技術への提言」としてまとめる。

- ① グローカルな視点とは何か。
- ② 専制的体制とボトムアップの政策決定、どちらが有益か。
- ③ 貧困と格差がなくなるには?
- ④ 技術開発と社会制度との協働とは。

また、国際食資源学院の修士2年と博士課程の学生については、これまでの研究成果をポスターにまとめ、自主的・積極的に学生自身の博士・修士研究を発展させることを狙いと

する。

## 講演会

海外の発表者は、事前にビデオ撮りしたものを配信、もしくはリアルタイム配信により講演いただく。国内の発表者は、リアルタイム配信もしくは、オンサイトによる口頭発表となる。

## 講演者

### 基調講演

1. Dr. Imasiku Anayawa Nyambe ザンビア大学地質学教授  
Environmental Effects of Mining on Agricultural Products on Zambian Copperbelt, Africa.
2. 小浜裕久氏 静岡県立大学名誉教授、国際食資源学院ゲストスピーカー  
Economic Development: Growth with Equity
3. 浅沼信爾氏 元世界銀行アジア第1局長・一橋大学教授、食資源学院ゲストスピーカー  
The face of ODA Tomorrow: MDGs, SDGs and Reality Checks

### 特別公演（登壇順）

4. 粗 信仁氏 元スリランカ兼モルジブ特命全権大使、GCF 客員教授  
未定
5. 赤阪清隆氏 元国連大使・広報担当事務次長、国際食資源学院ゲストスピーカー  
How to Govern the global Challenges

### 講演（登壇順）

6. 三次啓都氏 FAO シニアアドバイザー、元 FAO 事務局長補佐、GCF 客員教授  
Food System Transformation and Environment(仮)
7. 樋渡雅人 北大経済学研究院准教授  
Development and Social Institutions: Why is Agricultural Development in Uzbekistan Challenging?
8. Oh Sang Kwon 韓国ソウル大学校教授、GCF 招へい教員  
R&D Expenditure, Agricultural Productivity, and Farm Income in Korea
9. Methee Kawneer タイカセサート大学副学部長、助教授、GCF 准教授  
Small scale fishing villages engagement in fishery resource restoration: A case of Crab Bank Project in Thailand  
Development and Happiness: The Case of Central Asia (tentative)
10. 池 直美 北大公共政策大学院准教授  
Underclass, Poverty and Social Inclusion in East Asia: Listening to the Voices of the Voiceless”

## 学生成果発表

学生がポスターを作成し、国際食資源学院の教員が審査する。その中から点数の高い 10

名が当日オンサイトで口頭発表を行う。そのほかの学生は、ロビーにてポスター発表を行う。口頭発表をした学生の中から学院長賞 (Dean's Award) を決定し、シンポジウムの最後に表彰式を行う。

ロビーで行うポスター発表は、2組に分かれ15分ずつ行う予定。